

東日本大震災

学生もボランティア活動

東日本大震災が3月11日に発生、青森県から茨城、千葉に至るまで、震災の爪痕は広範囲に至った。震災から1ヵ月を過ぎても、福島原発の事故は收拾されるに至っておらず、放射能汚染に伴う二次被災者は不安定な生活を強いられている。震災後、混乱が続く中、様々なボランティア活動が始まった。19、20日には、その支援活動の1つとして厚生労働省、水産庁、日本薬剤師会、日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）、日本OTC医薬品協会など官民連携により医薬品や衛生用品などの救援物資を、横浜港から被災地区へと送る作業が行われた。この搬入・搬出、仕分け作業には、横浜薬科大学2～5年生の七十数人を主体に100人以上の薬学生ボランティアと大学教員、地元薬剤師会の有志ら約200人が協力した。



## 「横のつながり」で広がる支援の輪

この海上輸送は、水産庁が海上から支援物資を輸送するとの知らせを受けた厚労省が、被災地域で不足しているOTC医薬品、衛生用品などの調達と協力を急ぎ、業界団体に申し入れたことが発端となった。緊急物資の輸送を計画した厚労省が18日に、JACDS、OTC薬協に対し、「商品を緊急に確保、納品してもらいたい」と要請、医薬品等の搬入・仕分け作業等の協力を、日本薬剤師会および神奈川県薬剤師会に対し要請した。

業界団体では、支援物資のリストアップなどで準備はしていたものの、緊急な要請に対し、短時間で可能な限りの対応が迫られることとなった。さらに小売サイドでも、一部の現場で衛生用品等の品薄が起きている状況もあり、「店の在庫で可能な分を、何とか供出してもらいたいとお願ひした」（JACDS宗像守事務総長）という。

非常に短時間での集荷調整作業だったが、マツモトキヨシ、ぱぱす、カメガヤなどドラッグチェーンが迅速な対応をした。それによ

り翌19日朝には、横浜市金沢区の水産庁中央水産研究所に、10tトラックでおよそ10台分の医薬品、衛生用品等が届けられた。

この搬入・搬出作業、仕分け作業に大きな役割を發揮したのが神奈川県薬剤師会、横浜市薬剤師会、金沢区薬剤師会が中心となった薬剤師会会員有志と薬科大学の学生たち。

薬大生、特に5年生に関しては実務実習の学生も多かったが、震災の影響により関東地区でも、自宅待機、実習中断という状況が見られた。神奈川県薬剤師会では地元の横浜薬科大学にボランティア要請を行い、許可を得て七十数人の学生が参加した。

横浜薬大のほかにも、学生たちが「横のつながり」を發揮。携帯メールなどで他大学の学生にも呼びかけたという。その結果北里大学、昭和大学、帝京平成大学、星薬科大学、武蔵野大学、明治薬科大学、昭和薬科大学、東京薬科大学、国際医療福祉大学、慶應大学の各校からの学生も集まり、総勢100人以上に達したという。

集まった医薬品、生活用品としてはかぜ薬、のどスプレー、胃腸薬、下痢止め薬、便秘薬、皮膚用薬、鎮痛消炎剤、ビタミン剤、滋養強壮剤、殺菌消毒薬、マスク、ハンドソープ、除菌ウェットティッシュ、紙おむつ、ナプキ

ン、トイレットペーパー、歯磨・歯ブラシ、カイロ、水などで、これら救援物資は、20日に水産庁の漁業取締船に積み込まれ、宮城県に向けて出航、翌日には岩手県に向けても出航した。

医薬品類のチェックリストを作成するなど、作業のまとめ役となった厚労省保険局医療課の吉田易範薬剤管理官は、「特に避難所では生活物資をはじめ、OTC薬などが不足しているという声が多く、急ぎ対応をお願いした。ただ物資を現地へ持っていったとしても、必要なものが届かないこともあり、今回はいわゆる家庭の救急箱の中身をイメージして、段ボールに詰め込んでから送る形とした。各避難所に最低1個を目安に、約500個ほどを集めることができた」とし、業界団体、薬剤師会、薬学生等のボランティア、流通関係者の献身的な活動を高く評価した。

作業を終えた薬学生は、「痛ましい東日本大震災の報道を見て、自分にできることはないかと考えていた。研究室の先生から今回のボランティア活動のことを聞き、参加したいと思った。2日間一生懸命に頑張った気持ちで、救援物資と一緒に被災地に届けばうれしい。こんな機会があればまた参加したい」との声が聞かれた。

国 試 対 策 す る な ら

毎日 20 分。

このサイトが国家試験合格への近道！

薬剤師を目指す学生の支援サイト

薬剤師国家試験対策.com

PC <http://be89314.com/> 携帯 <http://be89314.com/i/>



あなたのTLで気軽に試験対策！  
twitterはじめました  
<http://twitter.com/be89314>

